

第七劇場

桜の園

公演概要書

「かもめ」（2007）、「ワーニャ伯父さん」（2019）、「三人姉妹」（2013）。
チャーホフの名作を製作し、上演してきた第七劇場が、
2021年秋、ついにチャーホフ四大戯曲の残るひとつ、
そしてチャーホフ最後の傑作「桜の園」を上演。

■ お問い合わせ

【三重公演】

三重県文化会館 [指定管理者：公益財団法人三重県文化振興事業団]
514-0061 三重県津市一身田上津部田1234
tel: 059-233-1100（事業課・担当：田島）

【その他の公演およびツアー全体】

合同会社 第七劇場
三重県津市美里町三郷2104 Théâtre de Belleville
tel: 070-1613-7711（平日10～17時） info@dainanagekijo.org

■ 桜の園 特設サイト <https://dainana-cerisaie.tumblr.com>

■ イントロダクション

——現実って何？ あなたは何が現実か見えているようだけど、私、目が悪くて何も見えないの。あなたは前しか見えていないのかもしれない。それはあなたの目にはまだ人生というものが見えていないだけじゃない？

——桜の園はもうなくなっちゃった。そう、これが現実。でも泣かないで。まだこれからの人生がある。一緒にここを出て、私たちで新しく庭をつくろうね。

（「桜の園」第三幕より）

以前は地主に搾取されていた農民あがりの商人の躍進、以前は搾取する側だった支配階級の没落、そしてそれら両方を見る未来を担う若者たち。この三者の目に「桜の園」はどう映るのか。チャーホフが亡くなる半年前に初演されて以降、世界中で上演され続ける名作戯曲。移り変わる社会と世代、変わる人間と変わることができない人間の切なさが入り交じる。

三重県文化会館を初演地に、金沢21世紀美術館、宮崎県立芸術劇場という、地域拠点劇場を結ぶ国内3都市ツアー公演を実施。

ロシアの巨匠・チャーホフは「桜の園」を120年近く前に書き上げ、この作品がモスクワ芸術在で初演された年に、44歳で亡くなりました。「桜の園」が彼の最後の戯曲であり、病床においても推敲を続けたと伝えられています。初演以降、現在に至るまで、世界中で上演され続けている名作です。

私たちが今年「桜の園」を製作上演する理由は、これまで彼の四大戯曲のほかの3作はすでに製作していて、最後の作品に取り組みたいと感じていたこともひとつですが、「桜の園」で描かれている主たるモチーフが、さまざまな世代にとっての「過去・現在・未来」であるという点に、私は強く惹かれました。

この作品では10代から80代までの人物が登場します（演じる俳優の実年齢は異なりますが）。それぞれが過去に対する態度、現在の苦悩と幸福、未来への期待を示しており、それらはまったく異なります。当然といえば当然ですが、私たちはときにそれを忘れがちです。価値観の多様性には、世代的な意味も含まれています。特に私のような世代（40代）は、自身の幸福追求と知見の蓄積と諦観が入り交じるという意味で、過ぎ去った若い輝きや幼さ、行く末である老いと終焉、同世代の中でのギャップなど、「桜の園」の人物たちの振る舞いに、さまざまな思いが去来します。その思いを舞台の上に表したいと考えました。

今回も、世界的に活動する希有な県立劇場「静岡県舞台芸術センター（SPAC）」の協力を得るとともに、金沢21世紀美術館、宮崎県立芸術劇場、そして三重県文化会館という、これまで培ってきた公立劇場とのネットワークを活かし、第七劇場にしかできないツアーを実施します。大変な時世、状況ではありますが、多くの方にご来場いただければと切に願っています。

鳴海康平

演出家、第七劇場 代表

Théâtre de Belleville芸術監督

■ 作品情報

桜の園

原作：A. チェーホフ
構成・演出・美術・訳：鳴海康平

出演：
木母千尋、小菅紘史 /
諏訪七海、増田知就
藤島えり子 (room16)
金定和沙 (青年団)
森下庸之 (TRASHMASTERS)
三島景太 (SPAC-静岡県舞台芸術センター)

舞台監督：北方こだち、北村侑也
照明：島田雄峰 (LST)、佐伯香奈 (LST)
音響：平岡希樹 (現場サイド)
衣裳：川口知美 (COSTUME80+)
フライヤーレイアウト：橋本デザイン室
写真：松原豊

【三重公演】

主催：三重県文化会館
[指定管理者：公益財団法人三重県文化振興事業団]
共催：レディオキューブFM三重
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人岡田文化財団

【金沢公演】

主催：合同会社第七劇場、2021ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭実行委員会、石川県、一般社団法人石川県芸術文化協会
共催：（公財）金沢芸術創造財団
後援：北國新聞社、MRO北陸放送、テレビ金沢、エフエム石川

【宮崎公演】

主催：合同会社第七劇場
共催：（公財）宮崎県立芸術劇場

助成：芸術文化振興基金助成事業（金沢・宮崎公演）
協力：SPAC-静岡県舞台芸術センター
製作：合同会社 第七劇場

一部座席を制限して販売する可能性があります。各上演地域のガイドラインにおけるに則って防疫対策を講じて開催します。今後の社会情勢により、やむをえず出演者の変更、および公演を中止または延期することがあります。

三重公演料金：

一般前売 2,500円（当日 3,000円）
25歳以下 1,000円（前売・当日とも）
18歳以下 500円（前売・当日とも）
※整理番号付き・日時指定・全席自由
※未就学児入場不可
※25歳以下、18歳以下券、当日確認要

三重公演チケット取り扱い：（8月21日発売開始）

- 三重県文化会館
 - ・チケットカウンター（窓口・電話）
 - Tel：059-233-1122（10:00～17:00/月曜 または月祝翌平日休館）
 - ・WEBチケットサービス「エムズネット」
 - <https://p-ticket.jp/center-mie/>
 - 第七劇場（予約のみ）
- <https://www.quartet-online.net/ticket/dainana-sakura-mie>

桜の園

1904年にモスクワ芸術座で初演されたチェーホフ最後の戯曲。かつての裕福なころの浪費癖が抜けない女地主ラネーフスカヤが、久しぶりに自分の土地に帰ってくる。しかし、その土地の桜の園は借金返済のために売りに出される。農民あがりの商人がこの状況を切り抜けるための助言をするも、ラネーフスカヤたちは聞こうとはしない。桜の園の売却が決まり、ラネーフスカヤたちは屋敷を後にする中、桜を切り倒す音が響く。

アントン・チェーホフ（1860 - 1904）

ロシアの作家、医師。小説においても戯曲においても革新的なスタイルで作品を残す。それまでの大きな物語や主人公のような存在に重きをおかず、人間に対するすぐれた描写で、リアリズムにおける近代劇の基礎をつくったモスクワ芸術座の創成期に戯曲を書き下ろした。「かもめ」「ワーニャ伯父さん」「三人姉妹」「桜の園」は四大戯曲と呼ばれ、現在も世界中で上演され続けている。



■ 上演情報

【三重公演】

会場：三重県文化会館 小ホール
(三重県津市一身田上津部田1234)

開演日時：

2021年10月9日(土) 14:00 / 18:00
10月10日(日) 14:00

- ※各回終演後にトークセッションを実施予定
- ※受付開始は開演の45分前、開場は30分前
- ※整理番号順のご入場
- ※10日(日) 14時の回にて託児サービスを実施。
先着順・有料・公演2週間前までに申込
(三重県文化会館 TEL 059-233-1122)

【金沢公演】

2021ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭

会場：金沢21世紀美術館 シアター21
(石川県金沢市広坂1-2-1)

開演日時：

2021年10月16日(土) 14:00 / 18:00
10月17日(日) 14:00

- ※各回終演後にトークセッションを実施予定
- ※受付開始と開場は各回開演の30分前
- ※当日受付順のご入場

【宮崎公演】

会場：メディキット県民文化センター
宮崎県立芸術劇場 演劇ホール 舞台上舞台
(宮崎県宮崎市船塚3丁目)

開演日時：

2021年12月18日(土) 14:00
12月19日(日) 14:00

- ※各回終演後にトークセッションを実施予定

- ※上演時間：約90分
- ※未就学児童入場不可

■ プロフィール

■ 鳴海康平 (なるみこうへい)

第七劇場、代表・演出家。

Théâtre de Belleville、芸術監督。1979年10月、北海道紋別市生まれ。三重県津市在住。早稲田大学在籍中の1999年に劇団を設立。「風景」によるドラマを舞台作品として構成。国境を越えることができるプロダクションをポリシーに製作し、ストーリーや言語だけに頼らないドラマ性が海外で高く評価される。ポーラ美術振興財団在外研修員(フランス・2012年)として1年間渡仏し活動。帰国後2013年に日仏協働作品『三人姉妹』を新国立劇場にて上演。AAF戯曲賞審査員(愛知県芸術劇場主催 2015～)。名古屋芸術大学芸術学部准教授(2021～)。

写真 ©松原豊



■ 第七劇場

1999年、演出家・鳴海康平を中心に設立。主に既成戯曲を上演し、言葉の物語のみに頼らず舞台美術や俳優の身体とともに多層的に作用する空間的なドラマが評価される。国内外のフェスティバルなどに招待され、これまで国内25都市、海外5ヶ国11都市(フランス・ドイツ・ポーランド・韓国・台湾)で作品を上演。代表・鳴海がポーラ美術振興財団在外研修員(フランス・2012年)として1年間滞仏後、2013年に日仏協働作品『三人姉妹』を新国立劇場にて上演。2014年、東京から三重県津市美里町に拠点を移設し、倉庫を改装した新劇場Théâtre de Bellevilleのレジデントカンパニーとなる。

■ 桜の園 特設サイト

<https://dainana-cerisaie.tumblr.com>



■ お問い合わせ

合同会社 第七劇場

5142113 三重県津市美里町三郷2104

tel. 070-1613-7711

mail. info@dainanagekijo.org

web. <http://dainanagekijo.org>